

市民のみなさんありがとう

歳末たすけあい運動総決算



①

写真説明 ① スキーをはいって遊ぶ児童園の子どもたち
② 玩具にたわむれる乳児院の天使たち
③ 新しい机で学習する光寮の子どもたち



光寮
腹ばいになって勉強—
お行儀が悪いといってしま
えばそれまでですが、こ
光寮(目や耳の不自由な困
みなさん、

再起の勇氣と
力がかうして
つちかわれて
ゆくのす。

児童園
正月にはみんなで楽しく
「ぞうり」を食べ、かるた
もどったが、何といても
こどもたちに喜ばれたのは
スキーの購入でした。いま
で学校でのスキーの時間は
他人のするのをさびしく
見ていなければならなかつ
たのですが、こどもたちは
スキーの時間のくるのを
楽しみにして待っていました。
五十人にわすか七台の
スキーといえ、こどもたち

乳児院
乳児院にはいま十三人の
ちのみが収容されてお
り、小さなこどもにも欠
くことのできない玩具は非
常に少なく、一般家庭の比
ではありませぬ。そこでこ
どもたちにはみなさんの
お志で新しい玩具が購入さ
れたのです。立春のあかる
い環境の中にこのかんぜん
な天使たちは泣いたり、笑
ったり、いますくくと育
てられていくのです。

寄せられた五十余万円の金品
このほど歳末たすけあい
運動の結果がまとまりまし
た。市民のみなさんから寄
せられた金品は金高に換算
して約五十五万円で、その
内訳は

ご芳志でスキーや机を
楽しかったことしの正月
これは毎日おもしろい雪光の中
で新しいスキーをはいって大
はしゃぎでした。

「市民のみなさん、ほんとうにありがとうございました。みなさんのおかげで私たちはスキーにのることができました。せんぶで七だいしかないもので、このことはできませんが、こうたいですべてい
ます……(以下略)」

これは児童園のこどもからの礼状の一節です。歳末たすけあい運動で寄せられた金品はこのように貧しい人たちにばかりを与え、明日へのはげみをつちかわれたのです。以下主な公共施設をめぐってその喜びの表情をお伝えしましょう。

会津若松市市政だより

発行所 福島県会津若松市栄町
会津若松市役所
発行人 桜木 幸次
定価 5.00

人口動態
(1月1日現在)

世帯数	21,358(+34)
現在人口	99,835(+105)
男	47,574(+67)
女	52,261(+38)

(1月中旬)

出生	142件	死亡	79件
転入	348	転出	306
婚姻	115	離婚	2



③

光地会津にふさわしいも
のであり、この駅頭はや
がて訪れる行客のシーズ
ンには会津を訪れる来客
にぎわうこととしよう



駅舎の改築
なる
会津若松駅の
駅前広場の拡
張整備の一端
として、この
度会津若松駅
の駅舎がみごと完成し
ました。

雪国会津の名物十日市
は今年から新暦一本にし
て、去る一月十日神明
通りを中心におこなわれ
ましたが、このゆかりの
ある十日市に市商工観光
課が中心となり商工会館
前にモデル店舗を開設し
ました。当日は十
余の人出でにぎわいまし
たが、モデル店は、大繁昌
店員さんたちははてさて
舞のいそがしさで売上げ
額も約二十万円という成
績をおさめました。

固定資産課税
台帳縦覧

期 間	3月1日～3月27日 (予定)
場 所	市税政課 大戸、漢支所
時 間	毎日午前8時30分より 午後4時30分まで 土曜日の午後休みま せん。

昭和36年度は基準年度に当
つておりますのでなとも
ご覧になる様お願い致しま
す。

寄せられた五十余万円の金品
内訳

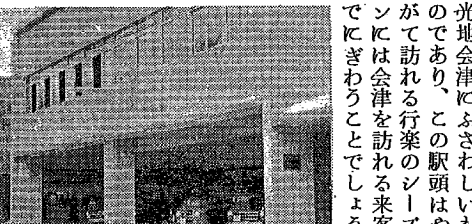
町内別一般寄附金	三五四、六二六円
特殊寄附金	九四、八一八円
県からの配分額	三三、八〇〇円
積立金よりの繰入れ	一一五、五五六円
計	五九七、八〇〇円

(このほか物資で約十
円相当)

これに対して市内の病院
の長期療養者一人につき五
五九七、八〇〇円となつて
おります。

消防署新庁舎落成
雪のちらつく去る一月
二十八日消防署の庁舎の
落成式がおこなわれまし
た。

この庁舎は鉄筋コンク
リート造りの総二階で延
六六〇平方メートルのも
ので、車庫には消防車六
台も整備でき、通信室、
交換室、すべり棒など消
防の生命である早期出動
に必要な施設をそなえら
れた。



図説 会津若松の歴史

第2次発行 3月上旬

学校に. 職場に. そして家庭に

その波瀾にみちた歴史を奥深く辿る郷土史の決定版ついに完成!!

市制施行六十周年記念出版編集委員会編・発行 会津若松市秘書課広報係

新聞社評

白虎隊の悲話で聞かされた会津若松市を中心とする地帯の史跡遺物を写真で示した。まず考古遺物でジョウモンのヤヨイ・古墳文化を、そして僧徳一の開いた恵日寺などで古代の仏教化を語る。若名氏以降武士の時代にも相応の文化が集中したさまがうかがわれる。戦国乱離の世から封建統一の江戸時代の資料は多く、名君として聞かされた保科正之以来の藩主の事績、行政、漆器その他の産業や交通、文芸、また町方、村方の年中行事、草摺、地芝居など、多彩に図示されている。明治維新戊辰戦争関係ももちろんたずねられる。

多彩な史料を収載

図説・会津若松の歴史

会津若松市の市制六十周年を記念して刊行されたのだが、官庁の行政的な仕事といえない編集者の一本筋金の通った情熱が感じられる。古代、封建時代、維新時代、現代と各時代について最新の学問的成果をとり入れて、会津の歴史を展開してみせてくれる。貴重な資料が多く、解説も当を得て懇切である。図版を通して目でみる郷土史として、卓抜したもので後世に残る立派な仕事だ……

福島民報

見る目を養え

最近東北の各都市から、郷土文化を記録する図書が刊行されていることは喜びにたえない。この図説も、会津若松市が、三十四年の市制六十周年を記念して企画、一年半の歳月を費やして完成した同市の文化史である。図説とあるとおり、全ページ、アト上質紙にグリア写真と豊富にそろえ、石器時代から現代に及ぶ同市の足跡を、いかに展開している。ところどころ色写真も配し見る目をたのしませてくれる。同市地方が東北文化のあけぼのの時代に占めた地位がよくわかり貴重である。

河北新報

